

「人形峠ウラン鉱床露頭発見の地」 記念碑建立にちなんで

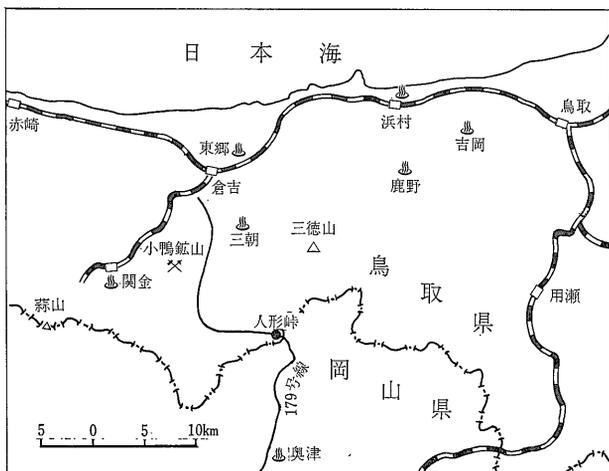
高瀬 博 (動力炉・核燃料開発事業団人形峠事業所 所長 (元所員)
Hiroshi TAKASE

鳥取県倉吉市から岡山県津山市を經由して 姫路に通じる国道179号線が 鳥取・岡山両県境と交叉する峠を「人形峠」と呼称している。

(標高735m)

昭和29年度に原子力予算の一部として国内ウラン調査費が地質調査所に計上され 以後10ケ年計画で国内のウラン鉱床事情を調査することとなった。

当時の地質学界の一部には核兵器につながる として ウラン調査反対の動きが活発で 調査技術の確立 調査対象地域の選択 調査担当者の選抜と実施面では幾分難行気味の雰囲気につつまれていた。 しかしながら翌年度には 倉吉市地内の小鴨鉱山含金石英粘土脈からウランを検出し 引続く広域調査で同年11月12日に上記人形峠周辺で新第三系基底部から 堆積型ウラン鉱床の露頭を発見する という誠に劇的なシーンが展開されたのである。



●建立位置

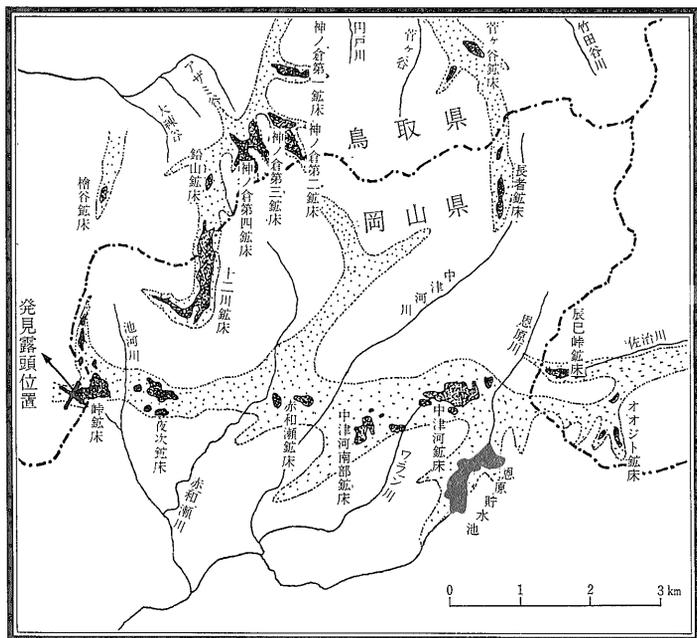
人形峠 記念碑建立位置図

以後 この露頭を源として広域に鉱床追跡が行われ また地質鉱床学的諸分野にまたがる研究が行われ これらの成果は広く国内全域に応用され 芋蔓式に多くの鉱床が発見される導火線ともなった。 それから いつしか4分の1世紀に亘る年月が経過し 世の中も 人形峠を取巻く環境も 随分変遷した。 核燃料技術開発センターとして人形峠事業所は飛躍的發展をとげつつあり 国際的にも極めて重要視されている。

それとは裏腹に 今日的發展の引き金となった ウラン鉱床露頭が発見にまつわる史実を 末永く伝える人がいなくなりつつあり かねて記念碑の必要性を痛感していた。

動力炉・核燃料開発事業団では 関係方面の御理解と御支援がやっと得られたので25周年記念事業として 雪解けとともに記念碑建立の工事を推進した。

去る5月29日には めでたく除幕式を

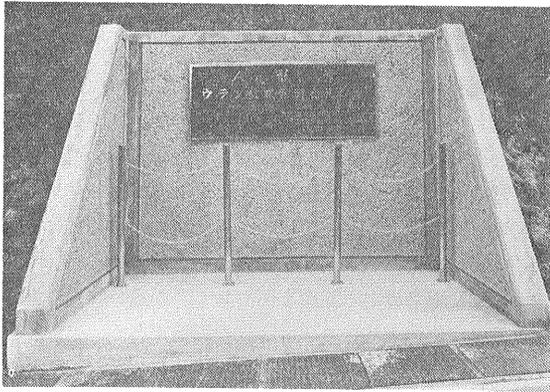


チャンネル構造 鉱床 ×発見露頭位置

人形峠付近 鉱床分布図

挙行し 当時の地質調査所長 兼子 勝氏 技術指導を
いただいた東京大学名誉教授 片山信夫氏 岡山大学教
授逸見 吉之助氏を お招きして謝恩の意を表すると
ともに 現所長 磯見 博氏には 地質調査所を代表し
現状を御視察いただいた次第である。

なお カーボン調査で放射能の異常を初めて認めた
地点は 当時は 表土・草木で覆われ 地質の实体は不
明であった。 この地点で 表土剥ぎ作業を^{みぞれ}糞降りしき
る中に行い 県道のレベルから上部に向い 花崗岩 基
底礫岩 アルコーズ砂岩 泥岩 等が顔を出し 粒間の

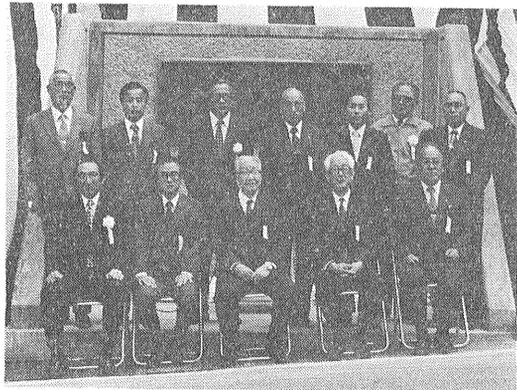


人 形 峠

ウラン鉱床露頭発見の地

昭和30年11月12日発見
通商産業省地質調査所
鉱業権者 動力炉・核燃料開発事業団

昭和56年3月27日建立



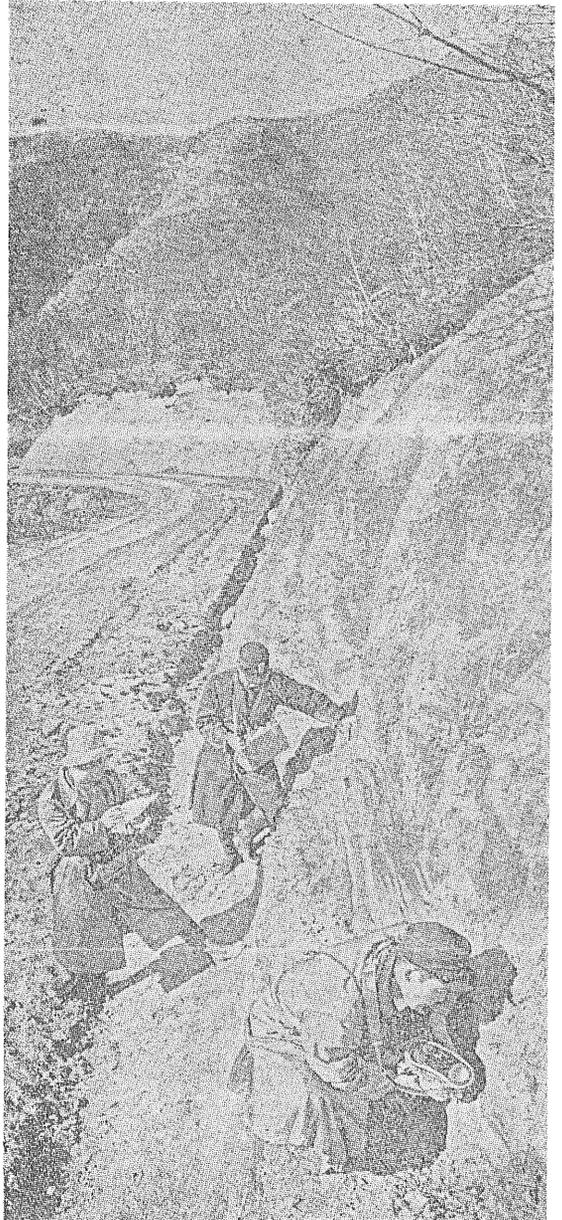
除幕式

前列左より 伊勢谷理事 磯見所長 兼子元所長
片山名誉教授 逸見教授
後列左より三番目が筆者

空隙の一部から燐灰ウラン石の美晶を見出したのであ
る。 当時の測定 サンプリングの現状をとどめた写真
が出てきたので添附した。 右端は故 中沢次郎氏 真
中は 丸山修司氏 左端は筆者である。

3名とも アメ横の進駐軍払下げ防寒コートに身を固
めている。 時代が思い出されて懐しい。

健斗された故 中沢次郎氏の御冥福を祈り 擱筆する。



トレンチ調査